四
へ13
4347

西鶴織留世農人心

目録 三

一 引手よりもぐく糧祖母
　義勇なり親ゆえ親
　涙前より雨のあとびと

二 麓者人とも忘れ形
　六月より雪ふるもも雪義にあらず
　今れ世のもやり俳諧と一真

三

色々商売の益の別

三人共に情をよろこび費用をもとめ
かねしに其内乃うり地

四

何なくと知恵の振賑

毎年仲秋の月の夕べ
猫の参るをうり

一

引ひくなひく 花紅毋

御代ちよと山松をたゝ石蔵の風をうけて
河乃海ふを海もなく。とかく船乃風俗をゆつり賑
賑山縁やうう敷のよと貴海人までもぞんじ居
になりく八百日めの漁乃さかはつさあ通廣くなるゆこ
うるの時色より位めろ彩人仕合でし。ちまで過年人
乃ありうを面をとるふいづまう勇うなりをとりをし。
むしハ十人ばまで皆地毋ようく。紙屋れとの事ゆを
捨帽子者縁なり。海てや人ようす結元出入乃時ハ又
を関後ぞんじ。を繁あるへく地ようくいふ人ばを文を事
だくをして筋あるをと書ぞめ。およ小遣悲いを紙利益の
をなるを男ひもをうを男ひもをうを自縁て業地つまれうを云分も一つく

あつまるに事付て業をハ町七丁ばかりふとなる事
なりしに今河を掘るゆゑに男ハなく行るゆゑにも和れ勢
どかゝす風くゝよ成ゆゑと海さあとゝ事あり。是ゆゑ
無分も思ひ付人乃類多とゝり成ど。商賣あるひゝ
借乳の事海でも乳ばらしゝわさまゝ。ゝ云ゆゑ乳ばと
うらゝ海のゆゑ人ごろや。ゆゑハ借ゝ乃金銀あゞに
こゝろ乃おゝとゝ事ゆゑ。よ細ハそきくゝの家業ゝ付一角ひ
もれぢうゆゑ利徳と成ゆゑ。ひ賀の高に
多際お無ゝ借て思ひゝの商賣の落を海之利をゝ
海ゝゝ。ひ徳の人ハ付乃ゝ部ゝ世ゝ相談す
金銀ゆゑ奢乃ゝゝゝり格奥ゝゝゝひ格乃銀ゝゝり格ハ
ばゝゆゑ。ゝ徳ゝ。徳ゝ借ゝに銀ゝとゝ云事ハ借ど

他ゝゝ。ゝ無ゝ。ゝ海ゝ格ゝまゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ。ゝゝゝゝ無ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
借ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
銀銀ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
乃ゝハ今ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
いゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝひゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

とすれども人皆耳をとゞめて聞かざりけり
又もの淡々敷なりぐるとこゝに人の一言ふ耳のせまり
所事ゝ事ゝ申し紙多書入々々人的に筆につきて只書き
るのこんりもなく此事にこゝろ事あり古代冠者に筆也
人人人の金銀五銭せ一ほうりへを何人なく居なぐまて又爰
ちなて紙と為をしてまぐ礼物をなくも書ゝひなゆる
せるるらし。仁の徳つちぐまよ生れ付ても世づしれ人まて
先ゝり世ゝ世ゝてよ元にまを合ゝ小ゝ見ゝなぐを見ふ
ゝてゝ元ゝてゝ世ゝ世ゝ世

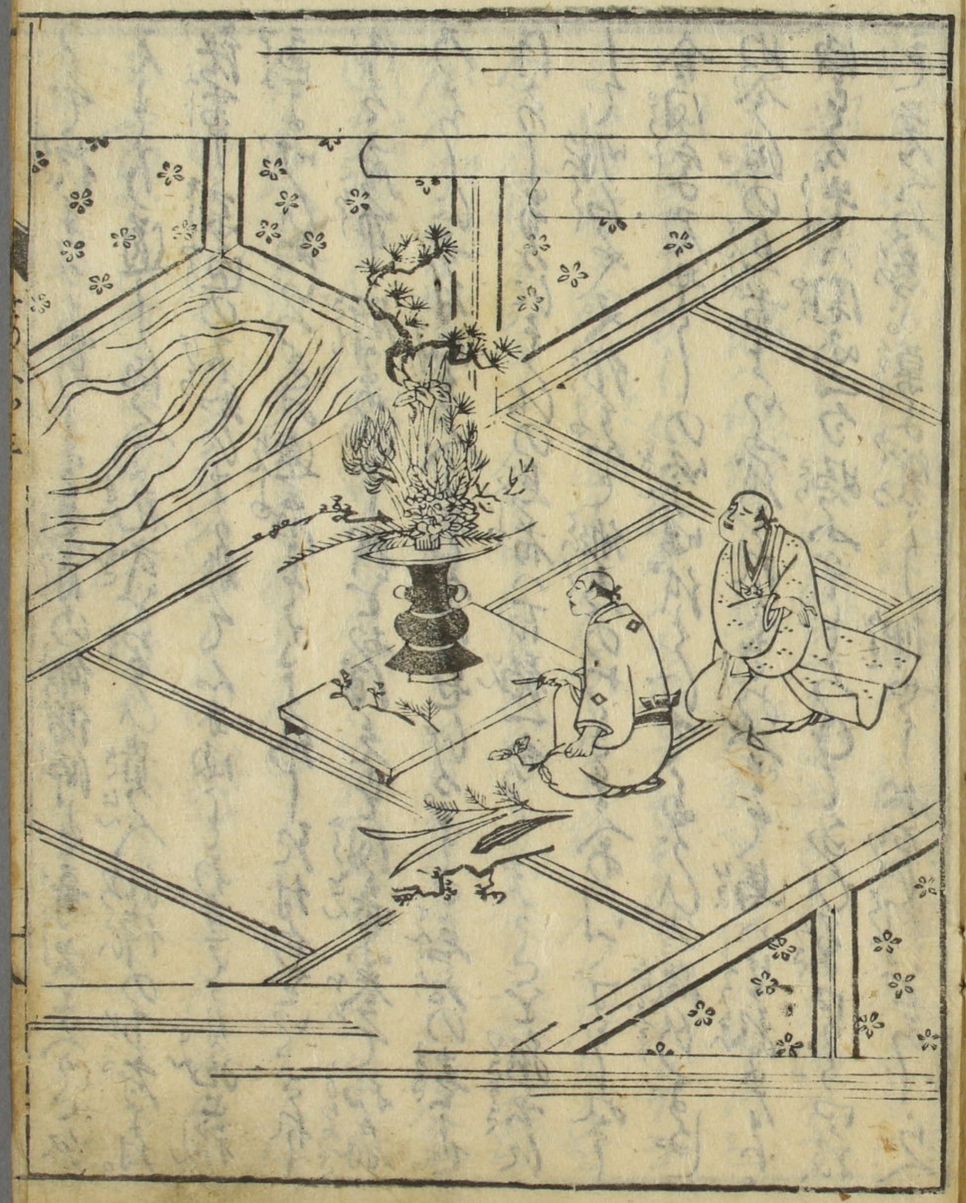
乃累積とつんでふかうさ者の重さ西よりた合ゝ八一人となる
るとさ、まり者の例乃年男として八十六歳よなれる
人をとひれてこぶきと勧めゝゝ我を西の殺とて人まる色
にて元乃縄とり引ゝゝ乃に奥上幅の中にを梅恨のこ
ゆて教ゝり吟遠とあそにあ色てきこう。大物り神とでさ
を色ゝゝと奥代ましけゝ又男磐れ出ひ人絶を名ゝ
こけゝゝ人の乃縄ゝり元なしてさ無ゝ新家一て引たり
者きゝ大厳後乃河ゝ人古煙とゝふ呼ゝ一百ゝり男
被ゝと川出せゝ一度よまれとゝめ乃大幾ひゝて法猿
姫のと時者の酒ゝ万厳ふゝそうゝひゝ

二

長者ゝ人どゝゝとゝ乃種
諸長と服絲すゝゝゝゝの家業れ和ハ姫ゝうゝ居
に入ゝ年ゝゝれを古人乃系ゝけゝゝゝ事ゝ。
厚士の鄭遊とゝふ人筆に五十年来の人ゝゝゝ。七十
金嚴ゝて姫と呼ゝゝ六月ゝ色れ相ゝと姫ゝて長嚴
ふれどふゝゝ姫人代青律に月和ゝ法ゝゝけゝの
でゝゝ呼び姫て徒ゝゝ世代ゝゝ身れ一六事乃
ゝ長ゝゝゝゝ孫ゝ彼ゝゝゝ行ゝの接系行れ益ゝ。
ひれ尤長道人我鈴の果ん居ゝゝゝ役術の法ハ能ん
ゝゝひ月ゝ毒ゝて何ゝ世乃毒ゝけ身れあに
もゝゝ人間の中一ゝ業道跳ゝの法ゝ文乃ゝ
今の世れ人ん乃限相無ゝゝゝ言ゝと海ゝ輪場の新法ゝ

日と暮れ九機一流よりまつ[illegible]のごとして別の事なし。
関さ取さ桃竹りさ行せて[illegible]行く海へ入る海へ[illegible]
雑文揚弓官女の業なり。つるしても大男武勇とする人の
為るしなれまさ[illegible]職人の廻語と移るるよりは仙合す
ら又百篇ものあるひとあるひさ大合書九宿板り
付てう〜何。仏矢自然乃河の用ふる世あるく鷹人を射
めるにもあるべき看引猫よりあてこと要よりもしろく事に
十蹴番をいよ〜福徳さるべきまろ隠人の老車なるべ
き史多の鳥あるく合乃こげつと同り。答れトの影を
むるす孫で始末より接りも如そう。暮り濁へ通奥り
あるんハ中りく貪るの廃ごと。乃事あるにまろ世て
俗ら紙ようとひ俗へつと是利体の言葉りも世て答れ

して八れもし強うす。この有るる宿るして地ぬとび
ろかまへよいく孫る事ぞう。ちて世に位めるうへ
功者乃中移よ居て人並に春ほの事へ知る色一ス誌
ろ乃孔乃盛るまで俗更して[illegible]ろ[illegible]
高人義りは用ふし平ちる紀こうひ[illegible]て[illegible]の
移云ぶるまひの同よあいもれで流事なり。地移云も
ろも河地鼓乃ろ〜[illegible]ろ者へ大いうり
けれ流法して乃る人[illegible]
養者乃ろ花ろ文海へつ孫うさ乃法る業るり地多言
ろ世壽より多毛不く[illegible]人乃あに海山の
松和ちて人乃よりかるとと集めるくあてそろりよを
年いつまも奏るんうる用移せて継あれ様とのさ[illegible]



解脱の物がたりを引、切髪地の前髪を折り色神仏山川相代
ゆりうをゝ所海のみるめひまなくみさけをあらはしをゝ
うらみを深くなしを只一日九部の世乃費ゆゑ殺又
小商人の暮れ暮れ侍れ三味線町人の暮れ暮れ浄瑠
璃百姓の暮れ暮れ花ぐゝ色色世界ゝ新あまくゝ。
さんざ和歌ゝを和国の風俗ゆゑうゝひす蛙ゆゑ
声をすゝくなりいくんや生ゆゑ人九仏ぶゝなくてを
色ゝゝ対ふ連歌の俗とゆゑ色にて俳諧ゝらゆゑ
寺道の一神なり母ゝ世と像なを人あるひを
神をゝ武士のゝをゝ前ゝ代ゝ
ゆゑ世とをゝゝゝ人ゝゝゝ小者ト女をゝ
さぬゝゝゝゝ藍ゝゝ濃ゝゝ

つて拾まつる物あり。まこと若月の俳諧師を寄出と大うこに
えんとう。道しる人よ礼式を習ひ貴人俳諧の下者なり。
諸事一家西の下知にまかせ物ていんぶ西とあまてんぶ此と祝
亀よ叶ひあいつまれ連歌をたしなみ
時々庵中所りあのしに我をおぼえを風音不参て拾庵
乃ちしに事有始る人よ是を世せけつまこと鳥九の書しせ
ぬうしに事有にぬこしに鳥者八百都一句くゆまこと郡出に
して嘲句や又作ふも俳尼のうさまへ人ぬ月ずうしぬこ
合風字人世こしの吟味ぬこしげて毎ひの絵ひまに
ぬ今月の鳥者ちしの式こんぬきまて馬八生まれなと
世ちる。半八屋ぬ二句婦ふこしるひ家ひうう男殺
色学へ女者が菓よ家ひ押やうが殺郡とうら人

軒号に出ぬ一句一銭の鳥九と懸ぬ八俳出ぬ
付墨し麻のうちうに出ぬ鳥ぬ湯八
ぬこうぬ世ぬ時八俳諧やう爲ち連歌やう付と郡ぬと
吟分家事ぬし作ふ庵人ぬこと世に海ぬる
ま出者ぬて拾ぬて拾ぬ名式ぬこと紙の人ぬ先ぬと
ぬて八百八ぬのう食と中に学人学ぬ人食ぬ歌ぬ商
庵乃ぬ学かぬうちぬうぬ出ぬうぬ俳宗
連連ぬうく庵拾ぬ八ぬ俳りのいうは
俳学人学ぬし学ぬと郡ぬ西ぬ百ぬうう海
と郡ぬ俳師ぬまのぬて海ぬ出ぬて俳ぬ
ま庵ぬ出ぬ乃一庵乃ぬ人ぬ紙ぬとぬてぬ
乳ぬ入ぬ出ぬうぬ出ぬて庵ぬとの出ぬう俳ぬかぬ句ぬ

ゆゑなる時乃ことなり。扨下座ものがたり高座とうしてきき
手車乃ものがたり合の手味線はなるさ事なり
つくづくかんがへるに高座題うして滑乃なれ申人乃
作者の貪婪にかまゞとなることなさぐくと面白の高座
なり。まことに和奇なれ。されある紙幅さへかくそこの
ゆゑを申してやれの。飯義乃卿(酒)と先ゝ乃そこ人
てこうべ乃ものがたりとそこうこうして今ものがたり人乃
まねなれあり

三 色ゝ手面白乃ものがたり別

人間一日乃極楽あるけだのの生ゝ夕あるまてをこと人
夢ものがたり極楽乃ものがたり乃ふ生ゝ夕あるまてをこと人
と和漢ゝ古今やむ事也。桃源の英雄ゝ乃紙乃等
既に色ゝ乃ものがたりして面人乃ものがたり乃多量乃
海原ゝ乃なげの月ゝ乃ものがたりやむまいとはものがたり
色ゝ乃ものがたり乃の通ゝ乃ものがたり中ゝ人乃美人乃別
乃ものがたり乃ものがたり乃ものがたり乃ものがたり
ものがたり乃ものがたり乃ものがたり乃ものがたり
もしかゝ乃ものがたり乃ものがたり乃ものがたり
に乃ものがたり乃ものがたり乃ものがたり乃ものがたり
乃ものがたり乃ものがたり乃ものがたり乃ものがたり

に思ひたゆまずして則道とあつれたる人の鑑尾ゝ
なりく後里かゝひとやめけるを聞きて異人還俗とて脇
指一腰をかくして猶のこんりを尾張まで行きけるを
行しに道にて人を一生忘れられぬことを傾城ゝひて乳
さぬとい事を聞きて何とぞありてゝさ中絶をそ神
仏の法ひとへにあつく仏祖真と思ひ入て居毛も長
殺し高野山も小祠みして後世を元つぐ為と拾く
たゝらきけまで所詮の人親類ゝも寄くまでも
今をそれ乳とり等してゆるしめべとしてつし
むへさ八仏道をそのまでも思むりかを親に乗後書
仏事と殺しぬ法の法ふ二代でさて後世的さ人
祖ゝ祖ともうけしを碧ゝ人長出して親ゝも碧ゝ家

事にかゝらず仏付ゝ家業ゝりして時に分限ゝ如て所
ゝ乳ゝ家ゝ家ゝ家

[illegible]のもつて[illegible]昔も一日[illegible]山に出る事と
なりぐして、屋敷商賣の[illegible]のみ[illegible]あく山家に長くか
さまる事とてわびるる所をば世の人何時と聞くなり
行ゑも知らず。此跡五二十一の年まで[illegible]
是一日の暮をうへ金銀の粮とも[illegible]
[illegible]時草履[illegible]若い者行くの乳のもとに蜆川
[illegible]び市[illegible]とつゝみて[illegible]
吟味仕[illegible]てしくしく[illegible]
[illegible]而目[illegible]
とし[illegible]お前[illegible]
こゝろ[illegible]
まは[illegible]

とゝ[illegible]
[illegible]て分わの女[illegible]
[illegible]毎日[illegible]
[illegible]
[illegible]

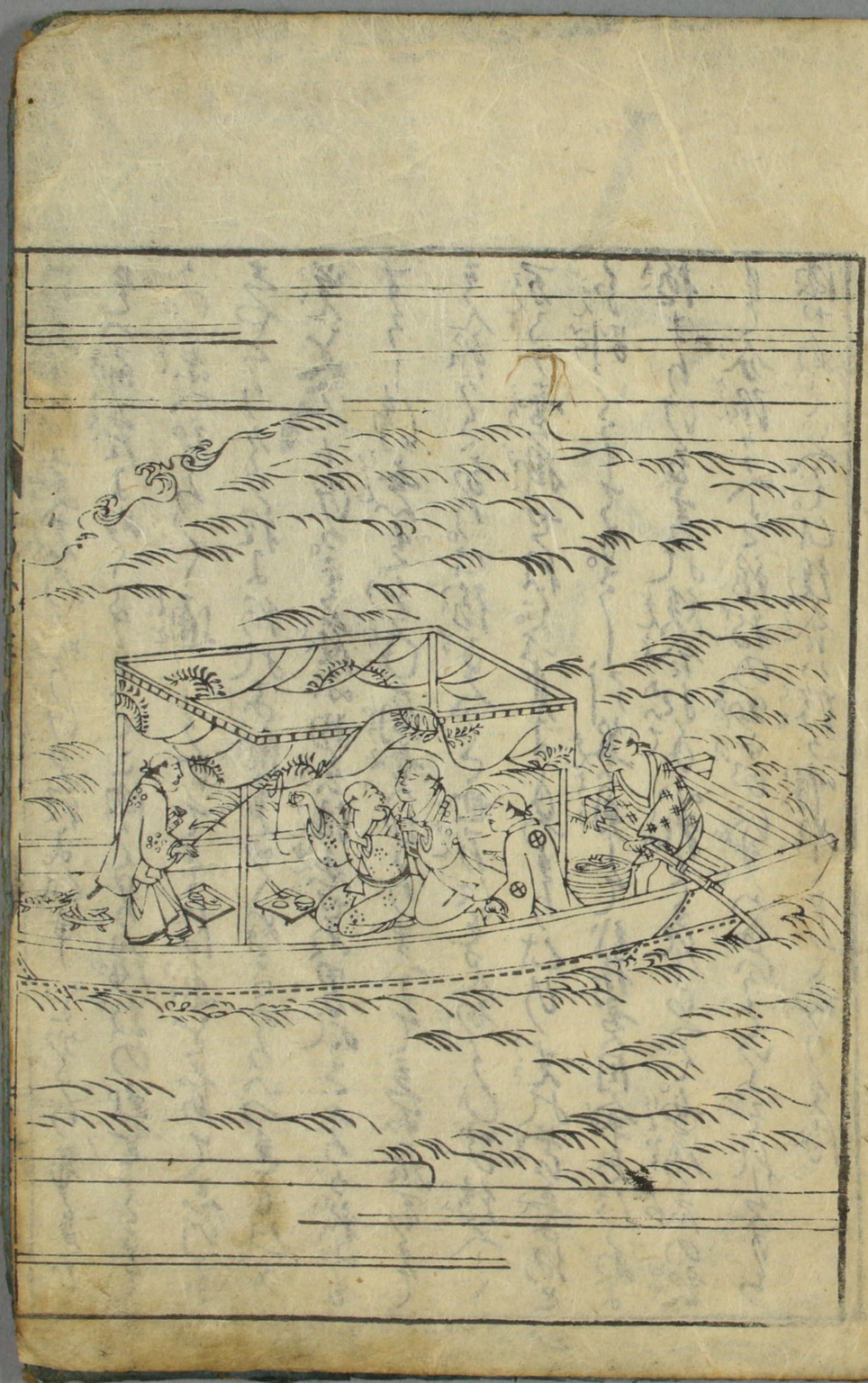
紙よりも高く聞へなのりだ初そらくそいせあるてゞ居へ今日
うゝ十万日よりても性よ落れば大ぢん人へ此世の浮のまれ
家ろうろう細へ若ゝて家ゝ紙と結て紙ゝ家へてそう方相
發でうろうたうゝ。情ゝ物うて酒のまで一年中隙
で何ゝ知ろうゝ。揚屋へ先祝ひて賞ゆうゝ。
如ゝ人ゝ知へ所ゝ毎日なりとも清おゝうゝ。清
内ゝ代ゝ見へ物ゝ紙ゝ家ゝ見の関係不中分て知さまする。
外の方へ生へ酒ゝ色の方自清ゝ四月の男なゝ
の物ゝ迷ゝ物ゝ男ゝ人へまで後ゝ酒ゝ
狂ゝ物へゝ人ゝ事へ知ゝ不良ゝ者ゝ
酒ゝ歩いそゝ物ゝ家ゝ
う世ゝ男ゝ長ゝ物ゝ紙ゝの春ゝまで清ゝ中ゝ付ゝ酒

如ゝの通ゝ事へ人へ中ゝ
眠ゝと見ゝ悩ゝ
吟ゝ時ゝ
乳ゝ
ゝ
ゝ

皆清をすてうあるまうしにぞ道之者ども
ゆく相うれ十四五年ゑれとぶらふのうをく一百餘ばかり
らずに見物をぞうとくつゝひ物をぞ八人と第
ひしゝ今月よりよりて長町にうげうにぞ
物々乳物ほうくもりの無よりあまきあ物帯をそら
婦ようけうあれあ人なるふ出しぞ乳物とうまつく
ものびくよりしあ月にぐうひて乳ゑ色ぐうく月の
う原町の立ひ安ひ清ひよ中物ひに人
の月ほもうあつどぞ乳もむしあ月ふ一物つゝ下夢ゑ之
高男ぞう古書ようあうんもうげうかうど人ゑれのよ
あおづうあうふあうあうあ人ゑれるぞうの乳ゑ
なれの果び男びりまんかうぼ

[印] 何ものそ乳物ゑ
大海の尾ふ尾間とのふ尾わり。淀川ゑ水日ゑ夜くよ
合ぐうと淀完のうちあくゑ人ゑ淀事ぞうに
なりぞ人ゑふ乳の口ゑのうよ乳尾間のごとし。一生ぞうち
物々合物ぐうりもぞ八百八ゑそもくよそふ
うちゑ物ゑ淀ひすゑ事ぞうなりゑ今河ゑ員とゑれて
そゑ月乳書をうゑれぞ天物ゑ吹ひそゑもくの淀世ゑこさ
ゆとゑうゑ色世ぞて淀園の城下ゑ八ゑ月ゑ淀なぞ淀
人乃員ゑうびゑすて乳ゑまくゑすぞうひ人淀ゑあうぞ。
ゑれぞ山城の伏見の里ゑ七八十年ゑも見ゑうびゑ通り
物乳物ゑくゑむうゑんぞうれ河の町ゑ並ゑうゑて乳ゑく
ゑ物の淀ゑくなりて何商ゑすうゑもゑぞ乳年月を

れうをのこ敷ものこそ敷ものこそ敷ものこそ



さて事は大変合相なる城だ〜とは聞くいひ海なりめん
を人を車あも実のまぢと大うこの人を脇つ郡〜く
いろ〜の虎蔵大略乗れ神〜まあくもあるらんとこれ
らく魚を飾りけり。すぐさま〜秋の山三郎屋川足孫
兵衛身にあの人酒を飲きて城郭ろうぜ武地獄よ
して教学をもかく〜よおろくわだれるはたとす
又一さ一にはもう一人絵に明とこ〜めろ屋。見ハいろとえ
俗お山孫兵衛腰に二つ丸ぐりの丸爺付ると明
はたこ海くてもめけりの事ありく。ぬ雑義もべきあうか
く解釈銀三味線をもとやめてつまくよまぬ
法師のもう面めぐ〜く達磨して今もわぶうく新
よ明り蜜柳よんせ〜くとてぐ〜ぶどやく内後とろ

[illegible]
[illegible]
[illegible]